

中支風俗の点描

第一百八十四回
第十五輯十二回

内容

蘇州の機織……………一
蘇州の綿布……………二



蘇州の籠……………三
杭州附近の子守籠……………四
折江省風景……………五
錢塘江沿岸……………六
錢塘江附近の漁家……………七
杭州民船碇泊……………八
蘇州の風景……………九
支那の僧侶……………十

記事

中支名勝案内 森田富義

撮影

島崎役治

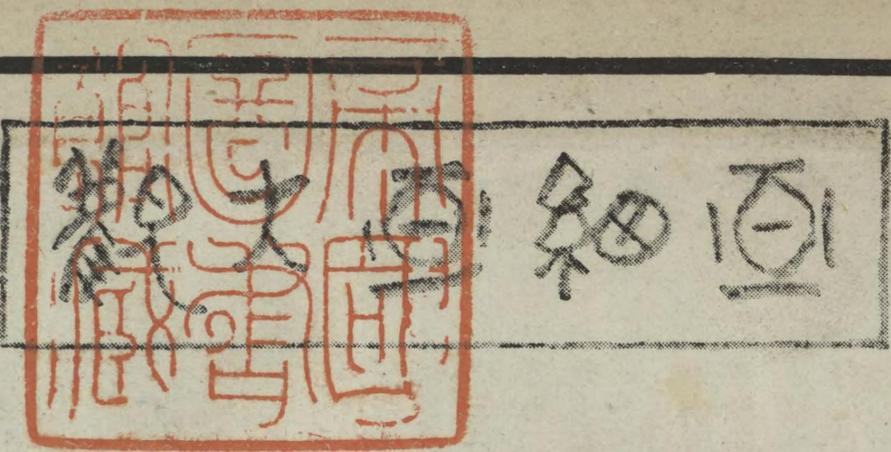
大連市山縣通り一九三

發行所 亞細亞寫真大觀社

電話②六二三五

(毎月一回發行) 版權所有 不許複製

大連市山縣通一九三
編輯人 青山捨夫
同 青 山 捨 夫
發行人 島崎役治
大連市三河町二一
印刷人 鈴木周哉
發行所 亞細亞寫真大觀社



中支の名勝案内

森田富義

蘇州上海から五四哩弱約一時間四十分、南京から一四〇哩弱約五時間を要するところに蘇州城がある。蘇州は歴史上有名なばかりでなく景勝の地としても亦有名で、支那を旅する文人墨客は必ず一度遊覧するところである。街は大小の道路が交通し到るところに水溝があつて、舟便に良くまた穹窿狀橋が架してあつて交通の便益を備えてゐる。城内には官公署、外國公館、學校、病院、劇場、旅館等があり、市街は段賑を極めてゐて、商賣も賑はつてゐる。歴史上有名な寺廟も多く、孔子廟、雙塔寺、北寺塔、虎丘禪寺寒山寺等がある。虎丘禪寺の慘事は十萬人の靈が白虎と化したと保へられてゐる。特に寒山寺は張繼の楓橋夜泊の詩で有名で、明朝の書家文徵明の書を刻した楓橋夜泊の詩の古碑があるが星霜風雪幾百年を経てゐるので、碑面崩碎して字體か判然とせず現在では近代の書家俞越の書を代刻し、その石摺を買つてゐる。靈巖山天平山の名勝も蘇州の近くにあり支那遊覽の土の杖を曳くべゆところである。

杭州上海から滬杭用鐵路で四時間半のところに杭州がある。府城には蘇州と同じく、官公署外國公館あり、學校、病院、劇場等があつて、商工業は願る賑やかである。寺廟は、夕照寺、圓覺寺、雲居寺、廣潤寺、廣林寺、鳳林寺、天長寺、法輪寺、藥王廟、東嶽廟、關帝廟、玄妙觀等がある。何れも古刹として有名で、由緒もあり、觀光團の集ることは蘇州と異なることはない。

錢塘江杭州城の近くにある錢塘江は水路舟運の便を以つて知られてゐるのみでなくこの錢塘江は海潮の満干によつて更に面白い現象を呈することでもり、流下する江水と接するところの水勢の衝突は激しいもので、轟音を發し、江中に水壁を作り、白沫は奔馬の走るが如き態を呈するのである。この時の船の航行は全く危険であるが、江上沿の舟人は巧にその水勢を途けて難を免れるのである。

景勝地として吳山があり城隍山とも云つて、明の大祖が「提岳百萬西湖上、立馬吳山第一峯」と賦したところである。府城を目下に依俯瞰し更に眼界の四圍は實に雄大である。

蘇州にしる杭州にしる、南畫の風景に富むところ、此處に來たつて始めて、畫の眞を知り、南畫の味ふことを知るのであつて、支那の幽山深谷の景は全く祥韻の極致を與へてゐることを始めて知るのである。支那に來て始めて大陸を知る如く、支那に來て始めて始めて風景を知る者も少くない筈である。

蘇州の織機
(中支風俗)
寫眞は蘇州名産の綿布を織るところである
また機にかける前の糸はるの圖で、幾十と立つてゐる綿糸をはゑて織物の縦を作るところである。春の日さしの暖い日に、庭に出て、小唄を唄ひ乍ら糸をはゑるところきは、近隣の姑娘がそつと覗きに來る位い慾長で且つ情緒豊かなものである。

423
305



蘇州の織機

(中支風俗)

寫眞は蘇州名産の綿布を織るところである
また機にかける前の糸は糸の圖で、幾十と立
つてゐる綿糸をはゑて織物の縦を作るところ
である。春の日さしの暖い日に、庭に出て、
小唄を唄ひ乍ら糸をはゑるところきは、近隣
の姑娘がそつと覗きに来る位い慾長で且つ情
緒豊かなものである。

(亞細亞大觀五十輯二十回)

蘇州の籠

(俗風支中)

支那にはまだ籠が残つてゐて交通機關の一助となつてゐる。山に登るには山籠があり遠い旅をするにも籠が利用され、寺廟に参詣するにも籠でお参するとある。寫眞は蘇州附近で使用してゐる籠で實に悠長なものである。悠ろして幾十となく續く籠の行列が通る時は村童ばかりでなく大人も出て珍らしく見送るのである。

(三回二十輯五十圖大亞細亞)

蘇州の綿布

(俗風支中)

蘇州は綿布の産地として有名である。寫眞第一圖は織機の前喧曲であつたが、本圖は既に機から下ろされた綿布である。悠ろして、山と積まれた綿布は、一日天日に乾して、織屋から商人の手に渡り、商人から商人の手に渡つて農商民の衣類となるのである。

(二回二十輯五十圖大亞細亞)



423
305



蘇州の籠

(中支風俗)

支那にはまだ籠が残つてゐて交通機關の一助となつてゐる。山に登るには山籠があり遠い旅をするにも籠が利用され、寺廟に参詣するにも籠でお参するとある。寫眞は蘇州附近で使用してゐる籠で實に悠長なものである。悠るして幾十となく続く籠の行列が通る時は村童ばかりでなく大人も出て珍らしく見送るのである。

(亞細亞大觀五十輯二十回三)

折江省風景

(中支風俗)

支那折江省の農家の風景である。家の周囲の情態から見ると秋の風景で、漸く米の收穫が終つたところである、秋らしく家の前の流れも和かで岸の物さが送に水鏡となつてゐる眞晝の百姓の一休みと云ふところであらうその團樂樂りは悠やましい。

(亞細亞大觀五十輯二十回五)

杭州附近の子守籠

(中支風俗)

寫眞は杭州附近の農家の風景を示したものである。一家は亭主も媽々も畑に出て働く家には藁で作つた守籠に乳のみ兒を入れて置くのである。守俗の周囲に收穫してある野菜類は實に見事な出来榮で、この收穫の前には働いても働いても疲れを知らないのが農夫の心情である。

(亞細亞大觀五十輯二十回四)



423
305



折江省風景

(中支風俗)

支那折江省の農家の風景である。家の周囲の情態から見ると秋の風景で、漸く米の收穫が終つたところである、秋らしく家の前の流れも和かで岸の物さが送に水鏡となつてゐる眞晝の百姓の一休みと云ふところであらうその團樂樂りは悠やましい。

(亞細亞大觀五十輯二十回五)



錢塘江沿岸

(俗風支中)

錢塘江に就ては裏に紹介したが、また此處に水郷錢塘江沿岸を紹介する。この家は、錢塘江岸の半農半漁を業とする家で、江面には家鴨が一匹泣いてゐる。等閑な風景であり、只だ氣になるのは家の壁にかかれた樂書であるが、判讀すれば、その意のあるところが察しられるであらう。それによつて 察すればこの平和な水郷にも土豪劣紳の悪の手が延びてゐるのではあるまいか。

(六回二十輯五十觀大亞細亞)

錢塘江附近の漁家

(俗風支中)

寫眞は水郷錢塘江の漁家である。水中に柱を建て、竹を締んで壁とし屋根は漸く兩を凌ぐ足るや否や 然もこの水上の家には寢室もあれば厨房も出来てゐるのである。漁家だけあつて葉舟一隻、竹籠も備はつてゐて、江上に漁し、その漁獲は近隣の街や邑に賣して、生計を建ててゐるのである。

(七回二十輯五十觀大亞細亞)

423
305



家漁の近附江塘錢

(俗風支中)

寫眞は水郷錢塘江の漁家である。水中に柱を建て、竹を縮んで壁とし屋根は漸く兩を凌ぐ足るや否や 然もこの水上の家には寢室もあれは厨房も出来てゐるのである。漁家だけあつて葉舟一隻、竹籠も備はつてゐて、江上に漁し、その漁獲は近隣の街や邑に賣して、生計を建ててゐるのである。

(七回二十輯五十觀大亞細亞)

蘇州の風景

(中支風俗)

蘇州杭州は支那の水郷として有名である。寫眞は蘇州の街に流入した流に架した橋で女が橋下の水に親しむ圖である。蘇州の街には悠うした橋が架せられ、舟運によつて交易が行はれてゐるのである。

(亞細亞大觀五十輯二十回九)

杭州民船碇泊

(中支風俗)

水で有名な杭州には寫眞のやうな舟が交通機關であり貨物運送の役目を果すのである。何處から來たがこの民船は杭州の街に沿れた運河に入り錨を下し一泊したところで、今朝霞の中に炊烟を上げてゐるところである。静寂から入らんとする朝の朝きは實にいい氣持のものである。

(亞細亞大觀五十輯二十回一)



423
305



蘇州の風景

(中支風俗)

蘇州坑州は支那の水郷として有名である。寫眞は蘇州の街に流入した流に架した橋で女が橋下の水に親しむ圖である。蘇州の街には悠うした橋が架せられ、舟運によつて交易が行はれてゐるのである。

(亞細亞大觀五十輯二十九回)



支那の僧侶

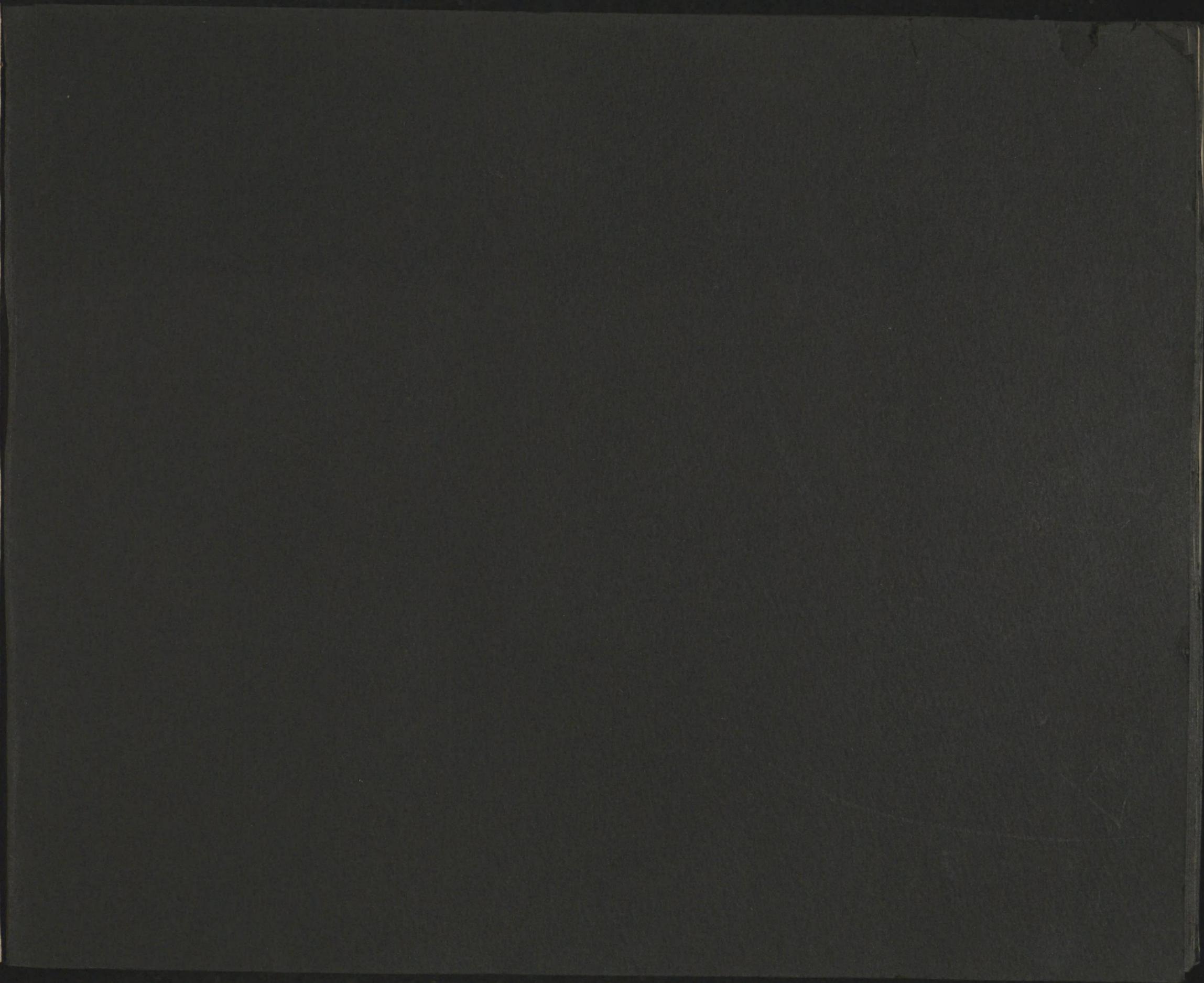
(中支風俗)

佛敎は印度に起り支那に傳はり、支那から日本に傳はつて今の日本の宗敎は佛敎全盛である。然るに支那の佛敎は今寺院を守の僧侶によつてのみ残つてゐると云ふ風で、どうかすると道敎に押し勝ちである、が、然し佛弟子は依然として寺にあつて、式らかの信徒を有してゐる。寫眞は支那僧侶の圖であるが、服装からすれば矢張り佛敎で日本の僧侶の服装と似る。

(亞細亞大觀五十輯二十回)

423

305

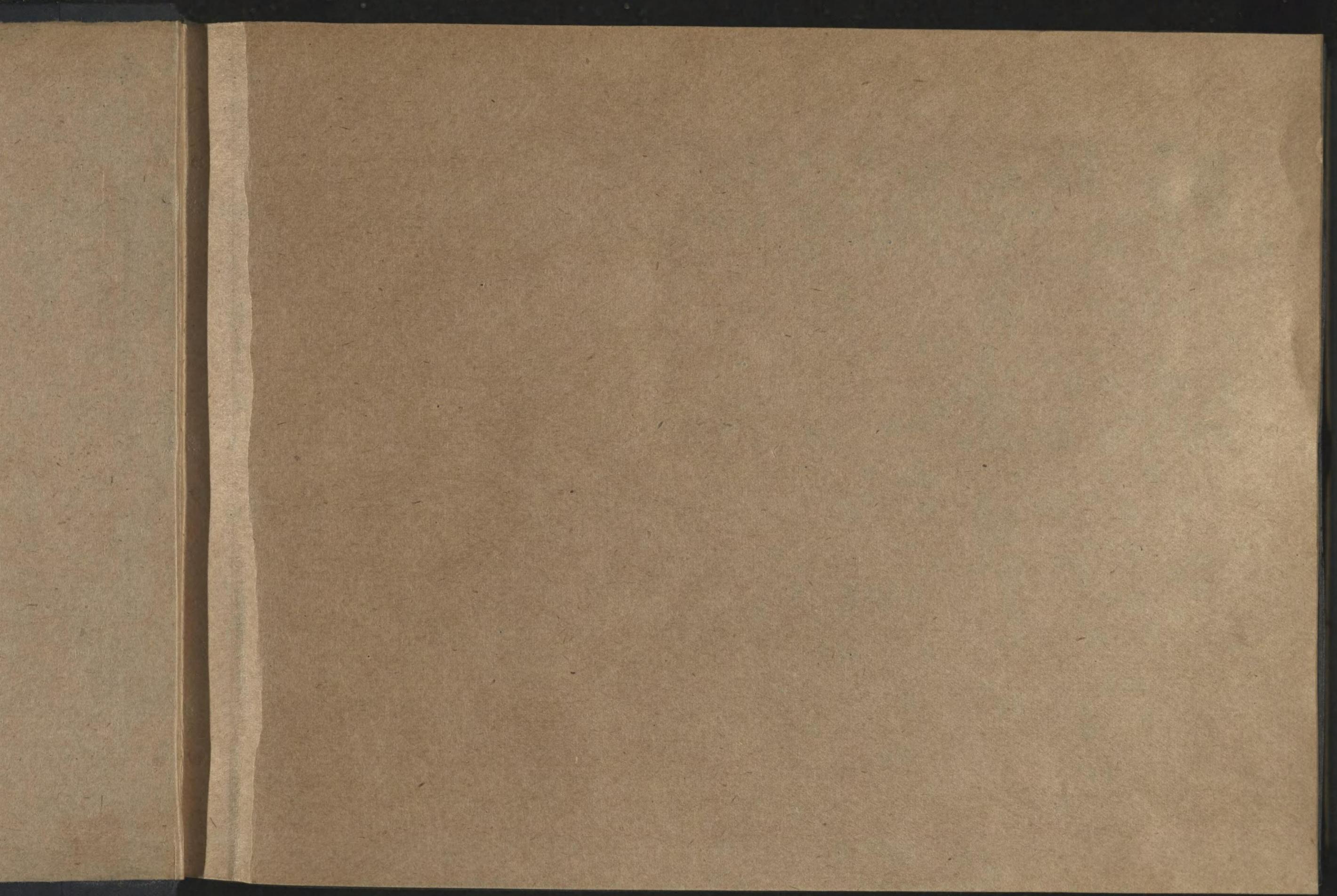




423



305



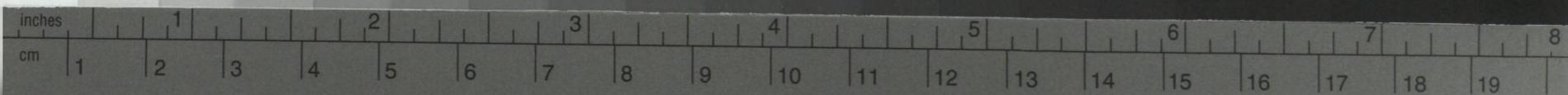


Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19



Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

